

新潟教育会報

第 67 号

財団法人新潟教育会
(新潟教育会館内)

代表 杉浦 隆夫

〒950-8104

新潟市中央区西大畑町590番地3

TEL/FAX 025-222-2971

E-mail <http://kyouikukai.jp>事務局 jimu@kyouikukai.jp研究所 kenkyujo@kyouikukai.jp

休館日 月曜日

印刷所 文久堂



講師プロフィール

埼玉県秩父市生まれ。武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻を卒業。平成3年2月、名曲「旅立ちの日に」を作曲。この曲は、小 中 高等学校や特別支援学校の卒業式の定番ソングとなっている。

現在は、埼玉県立秩父特別支援学校勤務。知的障害のある中学部1年生の担任として毎日奮闘中。

- 平成18年、第1回文部科学大臣「優秀教員表彰」受賞。
- 平成20年、埼玉文化賞受賞。
- 教科書掲載曲、「旅立ちの日に」「明日に向かって」「Song is my soul」
- その他、校歌 合唱曲、「歌おう OH MY HAPPINESS」「きみにとどけよう」や特別支援学校の生徒のためのミニ ミュージカルなどの作品もある。

平成23年度 夏季大学講座

23. 7. 30

新潟市民プラザ

「旅立ちの日に」その後

～特別支援学校での取り組みを通して思うこと～

高橋 浩美 様

教師が一番大切にすること

五泉市立橋田小学校

曾川 茂実

「旅立ちの日に」のやさしい弾き語り。常に子どもと真剣に向き合おうとする熱い思い。たちまち講話に引き込まれました。音楽教師として多くの成果を残されましたが、障害をもつ長男のりょうすけくんとの出会いが高橋先生の考えを大きく変えます。「人 人の子どもにどういう支援をすれば笑顔になれるのか。」これこそが教育の根本である。さらに、「できない子のつらさが分からなければ本当の先生と胸をはって言えない。」と。豪雨の地元を心配しながら出かけましたが、十分な恵をいただきました。

一人一人の笑顔が輝くために

村上市立西神納小学校

南波 裕

『子どもはかわいいですね。いろんな課題をもっているけれど、生懸命生きています。』「どうしてできないんだ。」ではなく、どうしたらこの子が笑顔になれるかを考え、日々取り組んでいます。高橋先生の講話は、自分の取組を厳しく見つめるよい機会となった。私は、目の前で困っている子に真摯に寄り添っているだろうか。できないと思ってあきらめたり、多忙を理由に手を抜いたりしてないだろうか。人 人の笑顔が輝くために、取組を工夫 改善して、更なる情熱を注いでいきたいと思う。

「旅立ちの日」その後 特別支援学校での取り組みを通して思うこと



高橋 浩 美 様

一 「旅立ちの日」ができるまで

正式採用となった 校目の中学校で、あの曲はできました。赴任した最初の始業式で当時の校長先生が、「自分たちの学校の世界に つしかな校歌を、胸を張って歌えるようになるう。」と、生徒に訴えました。私はこの言葉を聞いて、身の引き締まる思いでした。

その学校には合唱部がありました。この合唱部をコンクールに出すために、男子の応援部員を募りました。当時の二年生の男子の状況を考えると、だれ 人として協力はしてくれないだろうと思ったのですが、勇気を出して「とにかく私は本気だ。君たちの協力が必要だ。」と、子どもたちを前に熱く語りました。

すると、服装も整っていませんでした。なエネルギーな男子が十七名ほど、昼休みに私のところに来てくれました。彼らが心を開いた瞬間があって、その後の展開があったわけです。彼らに対しては、本当に感謝の気持ちをもって、でも、この学校にも悩んで頑張っている、どうにもならない子どもがいます。そのような子どもと真剣に向き合い、いろいろとやりとりをしながら乗り越えていく、そういうところにある曲の原点があります。

そして二年が経ったときに、あの曲が生まれることとなりました。当時の校長

先生がご退職の年になりました。そこで、「子どもたちのために、校長先生と 緒に曲を作りたい。」と申し出ました。

最初は軽くあしらわれていたのですが、翌朝学校に行くと、私の机の上に「白い光の中に」で始まる歌詞が置かれていました。私は吸い込まれるように見入ってしまいました。歌詞を見て、番私の心に響いたのが次の部分でした。

勇気を翼に込めて 希望の風に乗る
この広い大空に 夢をたくして

完成した曲は二年生を送る会で、先生方と 緒に披露しました。私は伴奏しながら、あふれる涙を止めることができませんでした。

二 その後 特別支援との出会い

私には息子がいるのですが、四歳のころに知的障害があることが分かりました。何とも言えないショックな出来事に言葉がありませんでした。学校では元気でいましたが、家に帰ると疲れ果てていました。番笑顔でいたい息子の前で、笑顔でいられません。仕事を辞めようと思ひ、校長先生に相談したところ、「今は本当にすらいかもしれないけど、あなたが音楽を通して 生懸命輝いて仕事をしている姿を息子に見せるのも、あなたの仕事だよ。」とおっしゃってくださいました。その言葉があり、もう少し頑張ろうと思いました。

そんなとき、特別支援学校に勤めていた知人に息子のことや今後の自身の生活について相談したところ、「特別支援学校に勤めるといふ選択肢もあるのではないかな。音楽療法を勉強していると聞いたけれど、そういったことも生かせる。」という話を聞き、異動希望を出しました。そして、特別支援学校の教師として新しい生活が始まりました。

現在、私は特別支援学校で中学部の年生担任として、五人の子どもたちを見えています。そのうちの 人にKさんがいます。Kさんは、入学式にじっとしてられないようなお子さんでした。私は、どうすればKさんが落ち着いて生活できるかを考えました。そこで、どんな状況でも叱らず、寄り添おうと考えました。

Kさんとの関係がよくなってきたところ、宿泊学習がありました。その話をしたところ、教室をとび出してしまいました。理由を聞いてみると、母親と離れるのが嫌だということでした。そこで、宿泊学習をどう乗り越えさせるかを考えました。Kさんはリズム感がよいお子さんなので、キャンプファイアの学年の出し物として太鼓に挑戦させることにしました。

最初は他の子ができないことに腹を立てていたのですが、たたく順番を工夫してKさんの見せ場を作ったあげました。本番は大成功で、Kさんはここにいた。

キャンプファイアの最後のダンスで、Kさんと手をつないでダンスをしました。「宿泊学習どうだった。」と聞いたら、Kさんは「うん、来てよかったよ。」と言ってくれました。

Kさんは星が好きで、きれいな星が見えることも宿泊学習の動機付けになっていました。ダンスをしているときに、「ほら、星もちょうど出てきたよ。」と声をかけたら、Kさんは「あ、ほんとだ。あの星はお母さんの星だ。」と言いました。この言葉を聞いて、Kさんの感性の豊かさをあらためて感じました。

Kさんとの出会いで学んだことは、とにかく寄り添う、とことん付き合う、穏やかに温かく見守り、愛することが大切だということです。子どもたちはみなさまざまな課題を抱えています。生懸命生きています。そういう姿を見るだけで何かをやったあげたいと思うのです。そういう思いをもって接すると、絶対子どもはそれを感じてくれるはず。『なぜできないのか。』ではなく、できないのは原因があるからで、そこを真剣に考えてあげて、どうしたら子どもが笑顔になれるかを考えることで、子どもたちは生活しやすくなるはず。です。

私は、息子やKさんとの出会いで、それまで見えなかったことがたくさん見えるようになってきました。これからも、そういうことをベースにした仕事をしていきたいと思ひます。

最後に、新しい曲を紹介します。
「きみにとだけよう」(歌詞一部抜粋)

大きな空に向かって
きみに愛をとだけよう
ちっぽけだけれどとびきりの

ぼくは きっとこの空より高く
みんな子どもたちを愛しましょう。
そうすれば、子どもたちもすてきな大人
になっていくはず。です。

(文責 石山 博之)